
浮気 人助

三色たわし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

浮気 人助

【Nコード】

N4157L

【作者名】

三色たわし

【あらすじ】

ある夜、俺は幼馴染みに居酒屋へ呼び出された。

携帯電話に着信履歴が残っていた。

幼馴染みだった。

返信すると、久しぶりに飲まないかとのことで、二人の中間地点にあたる居酒屋にて、酒を酌み交わすことに相成った。

落ち合って、四方山話よもやまばなしに花をさかせていたところで、幼馴染みが突然話を切った。

「ねえ」

僕の隣　カウンター席に腰掛ける幼馴染みが続けてこう言った。

「時々、突然『死にたい』って思う瞬間、ない？」

幼馴染みの発言に面喰らった。

彼女とは小学生からの付き合いだ。昔から弱音を滅多に吐かない奴で、弱々しい表情は稀にしか見せなかったものだけど、どういった心境の変化だろうか。

慎重に言葉を選ぶ必要があると判断して、僕は当たり障りのない逃げ口上でこう答えた。

「切羽詰まった時とか、後戻り出来ない瞬間は、死にたくなるかな」

「そうじゃなくて、ふとした瞬間だよ」

僕の一般論は駄目出しを受けた。

「ふとした瞬間か。今はそんなことを考えている暇がないのが本音かな」

「あなたらしいね」

いつもの口上だ。

馬鹿にされたのが半分、もう半分は納得だろう。

「私は最近死にたいって思う回数が増えてきた。間隔も短くなってる。ふとした瞬間に『あ、死のう』って考えてる」

僕には幼馴染みが、なぜだか今にも泣きだしそうに見えた。

だから、真面目に取り合わず敢えて茶化した。

「カウンセリングでもして欲しいのかな？」

「真面目に聞け」と焼き鳥の串で手の甲を刺された。

「次は耳だからね」

「はいはい」

それから僕は、幼馴染みの話を黙って聴いた。

仕事で行き詰まりを感じている訳でも、彼氏と不仲な訳でも、特に不満を抱えている訳でもない、幼馴染みは語った。

「……なんでだろう。なんで当然、私は『死にたい』って思うんだろう？」

満たされている現状、なにげない平和な日常、それらに浸っているルーチンワークに飽きて、辟易しているのが答えなんだろうと、僕は推測した。

「浮気でもすれば良いんじゃないの？」

刺激がないなら自殺でもすれば？　なんて助言は精神科医としても、人としても許されないだろう。なにより幼馴染みを死に追いやつてどうする。

「ん……手頃なのが居ないな。なら紹介してよ、格好良くて性格が碎けてる人」

「そんな人はこの世に居ない　居たら僕が付き合いたいくらいだ」
「あなたと付き合おうか？」

確かに幼馴染みとは、中学、高校と付き合っていた。体の相性も良かった。大学進学を契機に別れた光景が、今でも昨日のことにように思い出せる。

できることなら復縁したいが、今は到底無理な話だ。

なにしろ僕は

「婚約中に浮気をしろと？」

同居中の暫定妻が居る身だ。

しかし、幼馴染みはこともなげに堂々とう言って退けた。

「バレない自信はあるよ？　私の辞書に不可能の文字はないの」

「……きみは女版ナポレオンか」
「ううして浮気が始まった。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4157/>

浮気 人助

2010年10月9日00時55分発行